

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

初の単語を話せるようになる

⇒ 150語の単語を話せるようになる

までの「ことばの発達」の仕組み

「感覚」の発達はお母さんのお腹の中にいる段階から始まっているという話は聞いたことがあると思いますが（『胎教』とか聴いたことがありますか？）さらに、それには順番があるんです。

触覚⇒聴覚（24w-）⇒味覚（28w-）⇒嗅覚（30w-）⇒視覚（出生後）

聴覚の発達は実はかなり初期段階からの発達があって、妊娠30w辺りには2種類の音を聞き分けていると言われています。…で、人が話し始めるのは大体1歳～1歳半の発達齢のですが、「単語を話す」ことには学習準備（レディネス）があって、『単語の切り出し』というものができないと単語学習には至りません。例えば、生活の中から「ママ」という音韻を、豪雨のような言葉のシャワーの中から切り出して、「ma,ma」という音は、自分以外の人にも目の前のお母さんことを指示する意味があるんだ！』…と発見することが必要です。（30wで「音」の聞き分けができるのに「単語」の切り出しが90w。ココにも意味合いと考察を見いだしてください！）また、この段階のお子さんの単語学習のエラーとしてありがちなのは、人全般が「ママ」、動物全般が「ワンワン」になる等。単語のもつ意味の切り出しに失敗しているパターンが挙げられます。そして、そういったエラーは言語発達齢が1歳半を越えると無くなっています。また、「言語発達齢が1歳半を越える」ということは「言語爆発の時期を迎える」ということです。単語数が150語ほどを目指していきます。時々「スゴい勢いで話すようになったよね」というお子さんがいますが、この時期を駆け抜けていることが多いです。また、小学部のことばの発達の順番を追っていくとすれば、ざっくりと

物と物マッチング → 物と音マッチング → 動作・口型・音声模倣 → 命名理解 → 一文字一文字の逐語分解 → 属性理解（属性・グループ） → 感情理解 → インターバーバル理解（用途を聞いて物を選べる） → 前置詞 → 副詞 → 接続詞 → 文章理解・作成 …

となっています。また、応用行動分析を用いたトレーニングを用いる際には、ロバース・プログラム・スケジュールというものがあって、下図の様になっていたりします。

「単語の切り出し」って、とても難しいので生活の中でのトレーニングだけではダメで、こくご・さんすうの中で、単語（音韻）を限定してじっくり取り組んであげるのがやはり良いと思われます。

